

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立江戸川高等学校 学校運営連絡協議会(全日制課程)
- (2) 事務局の構成:4名
副校長／主幹教諭(教務部主任)－事務局長／主任教諭(生徒部主任)／主任教諭(進路部主任)
- (3) 内部委員の構成:9名
校長／副校長／経営企画室長／主幹教諭(教務部)／主任教諭(生徒部)／主任教諭(進路部)
主任教諭(第1学年主任)／主幹教諭(第2学年主任)／主幹教諭(第3学年主任)
- (4) 外部委員の構成:11名
同窓会会長／蓮葉会副会長／PTA会長／菱野会会長／江友会会長／江友会副会長
近隣中学校長／近隣自治会長2名／近隣保育園長／有識者(教育)

2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会の概要
 - 第1回 令和4年5月27日(金) 内部委員:9名／外部委員:9名
協議委員委嘱／評価委員依頼／令和3年度の取り組みについて
令和3年度学校経営報告／令和4年度学校経営計画／各分掌・学年の概況及び令和3年度の取り組みについて
 - 第2回 令和4年11月4日(金) 内部委員:9名／外部委員:9名
第1回協議会の報告／各分掌・学年のこれまでの取り組みについて
「江戸川高校の教育活動点検アンケート」の実施について／意見交換
 - 第3回 令和5年2月3日(金) 内部委員:8名／外部委員:9名
第2回協議会の報告／各分掌・学年のこれまでの取り組みについて
「江戸川高校の教育活動点検アンケート」の実施結果について

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点と主な内容
学校生活全般／学習指導／行事・生活指導／進路指導／地域との関わり
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - 12月～1月 全校生徒 対象:950名 回収:777名 回収率:81.8%
 - 12月～1月 全保護者 配布:950名 回収:356名 回収率:47.5%
 - 12月～1月 全教職員 対象:51名 回収:51名 回収率:100.0%
 - 12月～1月 地域 配布:150名 回収:76名 回収率:50.1%
- (3) 主な評価項目
学校生活全般……学校経営計画／学校生活の楽しさ／HPの閲覧状況／業務削減
学習指導……授業・家庭学習・習熟度別授業・年間授業計画・成績の基準
行事・生活指導……行事の充実度・部活動の取り組み状況・生活規律・教育相談
進路指導……生徒の適性や希望を活かした指導・進路資料の活用・講習と補習
地域との関わり……施設開放／地域活動への参加／社会奉仕活動の取組み／校外の生徒の様子
- (4) 評価結果の概要(学校への意見・提言)
 - ア 生徒の51%が、江戸川高校は「行事が盛ん」と回答している。
 - イ 教職員の42%が「業務の効率化・削減は「していない」と考え、昨年度の67%から改善された。
 - ウ 進路指導に係る取組みについて、「よくなった」という回答が42%となった。
 - エ 保護者の57%が「成績・評価がどのような基準でつけられているか」を知らない。
- (5) 評価結果の分析・考察(学校への意見・提言)
 - ア 学校行事については、「盛んである」と認識している生徒が減少している。コロナ禍における行事の縮小やなどが影響していると言える。本校の「売り」を前面に出す戦略が必要である。
 - イ 組織的に改善を図ってきた成果であると考ええる。
 - ウ 進路部の取組みについては、生徒・保護者からの評価は概ね良好であるが、生徒の学力向上、進路実績の向上に係る取組みについては今後の課題である。
「総合的な探究の時間」の扱いについて、進路部が、主導推進するという姿勢を明確にし、学年によって内容や取組みに大きな差が出ないようにしていくことが必要である。
 - エ 保護者の方々の意識の変革も求められる。生徒の力を伸ばすことにおいて、適正な評価基準を設定することは不可欠であるが、教員・生徒・保護者の3者が、現状と課題を共有して、評価基準の見直しを図ることも含め、学校に評価基準の説明を求めねばならない。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題(学校の自己評価へ反映)

- ア 行事・部活動が盛んな江戸川高校というイメージが弱くなっている印象である。学校としての色を残すためにも校内での活動活発化させるとともに、広報・生徒募集活動の面でも力を入れていく必要がある。
- イ 業務の効率化・削減として会議の回数を減らし、情報共有の手段としてICTの活用機会増やしたことは成果につながっていると考える。今後は分掌、学年などの情報を単発にせず、どのようにして引き継いでいくかが課題である。
- ウ 生徒の学力向上と進路実現のために、進路部、学年だけでなく、教科としての組織的な動きが重要である。

令和4年度学校運営連絡協議会

エ 学校で行われている教育活動について興味や関心を持つことが大切であることが保護者の代表者がいる中で、共有されたことは大きな成果である。各教科の評価基準のみならず、学校のシステムをきちんと把握することによって、教員と保護者が、建設的な話し合いのすることの土台ともなる。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項(学校経営計画へ反映)

(1) 学校運営

ア 思考力・判断力・表現力の伸長を重要視する新教育課程の導入に合わせて、教科会でやるべきことを定め、組織的に教科会を実施する。

イ 業務の効率化・削減に向けて、具体的に何すべきか考えていく。

(2) 学習指導

各教員の授業力を向上させる研修の機会を設ける。

(3) 特別活動

学校行事に、今まで以上に主体的に取り組ませ、思考力・判断力・表現力を総合的に高める。

(4) 生活指導

自転車に係る事故防止とマナー向上について、生徒に考えさせる取り組みをする。

SNSの使用によるトラブル回避や悪影響防止をについて、生徒に考えさせる取り組みをする。

(5) 進路指導

ア 進路指導に係る3年間の計画を、新学習指導要領や高大接続改革に即した形で、進路部が主体となって再構築する。

イ「総合的な探求の時間」の内容の中でSDGsの取り組みを継続して実施し、ブラッシュアップしていく。

(6) 健康・安全

大雨による河川の氾濫を想定して、適切な避難行動をとれるように、生徒一人ひとりの行動力や対応力を高める取り組みをする。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 11人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の割合

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
27.2%	45.5%	18.2%				9%

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回